

# 北海道浮魚ニュース

平成11(1999)年度8号(通巻 No.54)

1999年7月27日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

## 北西太平洋サンマ北上期調査結果

北辰丸(釧路水産試験場調査船)によって行われたサンマ北上期調査の結果をお知らせします。

調査期間：1999年7月9日～22日

調査海域と調査点(図1)：北西太平洋(北緯40度30分～46度30分、東経149度30分～162度30分)の17調査点(漁獲調査は8点)

調査方法：5種類の目合(22、25、29、37、48mm)の流し網を用いた漁獲試験

### 表面水温(表1)

漁獲調査を実施した8調査点の表面水温は東経156度以東では9.1～11.4で前年(8.5～15.1)より全体に低かったのですが、東経156度以西では13.8～21.4と前年(14.4～18.2)よりやや高めになっています(表1)。

### 漁獲尾数(図2,表1)

流し網を用いた漁獲試験の結果は表1のとおり、サンマ漁獲尾数の合計は2,328尾でした。調査1回流し網1反あたり漁獲尾数は27.7尾で前年(16.9尾)を上回りましたが、1997年(45.6尾)を下回っていました(図2)。

調査点別に見ると、サンマはST.11で全体の漁獲尾数の大半を占める2,082尾漁獲されましたが、他ではST.13で244尾とやや多く漁獲されたものの、ST.1ではわずか2尾、ST.3～ST.9とST.17では皆無でした。ST.1～ST.9の結果から、東経156度以東海域のサンマの分布は極めて少ないと思われます。

### 体長組成(図3)

調査全体では30cmモードの大型魚と26cmモードの中型魚の双峰型でした。

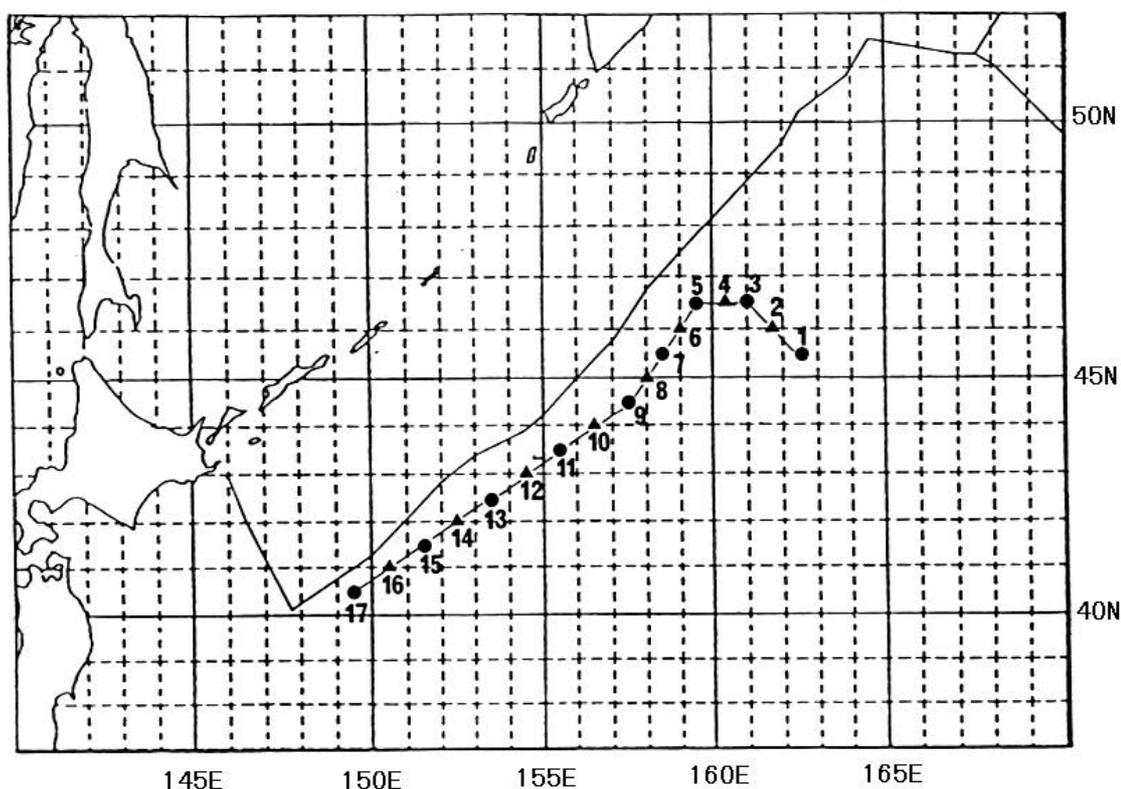
調査点別に見ると、ST.11で30cmモードの大型魚と26cmモードの中型魚が大半を占めましたが、ST.13では21cmモードの小型魚主体に体長20cm未満のジャミ混じりでした。

以上の結果から、東経155度30分付近の海域では30cmの大型魚と26cmモードの中型魚が主体で、東経155度以西の海域では小型魚主体で分布していると考えられます。

現在、道東沖のさんま漁況は不漁ですが、6月～7月上旬の調査結果から道東～三陸沖の北上群が少ないことと、この調査の道東近海寄りのST.17の漁獲が皆無であること、ST.13も小型魚とジャミが主体であることから、サンマの不漁は東経155度以東の沖合の北上群が南下する8月上・中旬まで続くと考えられます。

来る8月9～10日に東北区水産研究所（塩釜市）で平成11年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議が開催され、今回の調査結果を含めた各機関の資料を基に、漁海況予報が発表される予定です。

（文責：釧路水試資源管理部）  
直通電話：0154-23-6222



ST.15は荒天のため、海洋観測のみ実施

図1 調査点図（●：漁獲調査及び海洋観測点、○：海洋観測点）

表1 平成11年度北上期調査のサンマの漁獲尾数と混獲尾数

目合22,25mm各1反(30間切り換算)、29,37,48mm各4反(60間切り換算)

ST	1	3	5	7	9	11	13	15	17	
揚網日	7.13	7.14	7.15	7.16	7.17	7.18	7.19	欠	7.21	
位置	北緯	45-30	46-30	46-30	45-30	44-30	43-30	42-30	41-30	40-30
	東経	162-30	161-00	159-30	158-30	157-30	155-30	153-30	151-30	149-30
水温	0m	10.9	9.1	9.2	10.5	11.4	17.2	13.8	19.0	21.4
	50m	3.3	2.5	2.5	3.4	3.9	10.9	2.7	10.7	12.5
	( ) 100m	2.4	1.1	1.0	1.4	1.3	8.3	1.2	7.2	10.1
サンマ漁獲尾数	2	0	0	0	0	2,082	244		0	合計 2,328

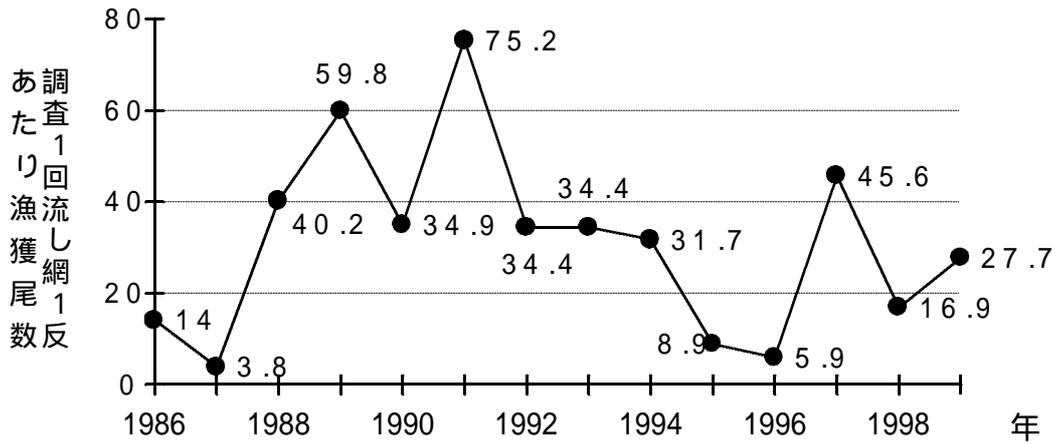
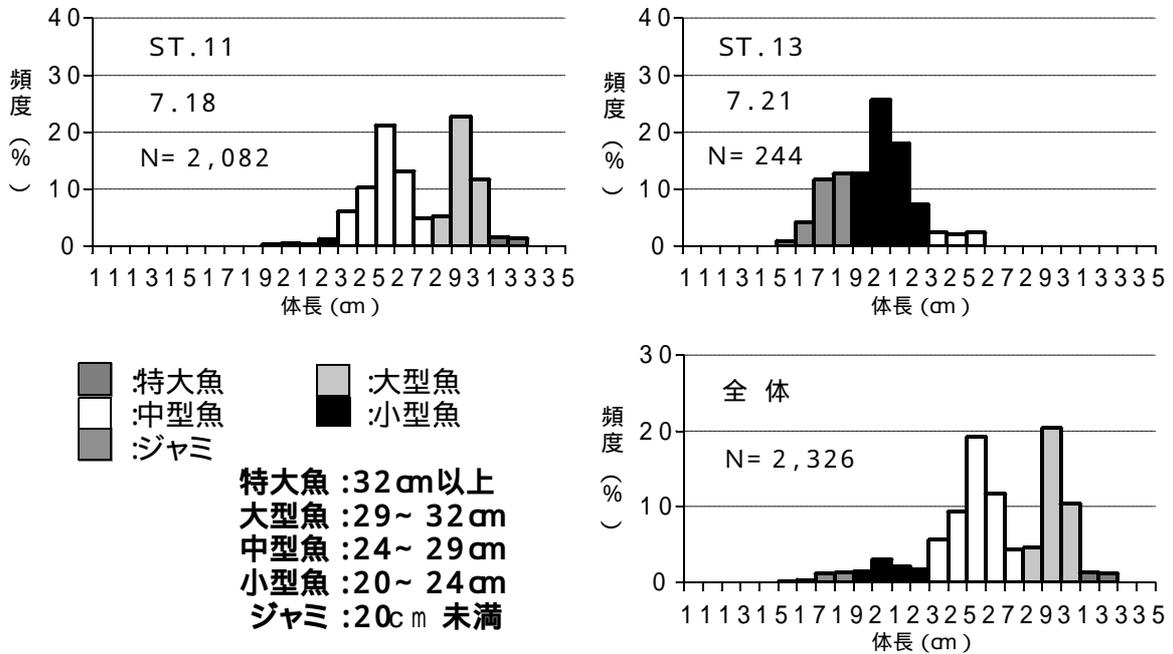


図2 1986年(昭和61年)~1999年(平成11年)の調査1回流し網1反あたり漁獲尾数の推移



体長組成：流し網の目合別に上限100尾測定、それを目合別の漁獲尾数で重み付けして合計し、全体の組成を算出

図3 流し網調査の体長組成 (Nは漁獲尾数)